

講義要綱

SYLLABUS

2022年度

柔整科

2 年

【基礎分野】

スポーツ科学

【専門基礎分野】

解剖学Ⅲ
解剖学Ⅳ
解剖学Ⅴ
生理学Ⅲ
生理学Ⅳ
総合スポーツ生理学
運動学Ⅰ
運動学Ⅱ
病理学概論Ⅰ
一般臨床医学Ⅰ
一般臨床医学Ⅱ
外科学概論Ⅰ
整形外科学
衛生学Ⅰ
リハビリテーション医学Ⅰ

【専門分野】

外傷学理論
柔整骨折理論Ⅲ
柔整脱臼理論Ⅱ
柔整軟損理論Ⅱ
柔整総合講座Ⅰ
柔整総合講座Ⅱ
柔整骨折実技Ⅱ
柔整骨折実技Ⅲ
柔整骨折実技Ⅳ
柔整軟損実技
柔整脱臼軟損実技Ⅰ
柔整脱臼軟損実技Ⅱ
臨床実習Ⅱ
臨床実習Ⅲ



学校法人エイジェック学園
スポーツ健康医療専門学校

[授業科目]

スポーツ科学

2学年

[基本情報]

担当教員	須田 正志	単位数	2	時間数	30
実務/資格	体育教員免許を持っている柔道整復師の教員が、各種トレーニングについて離開を深めるための基礎的知識に関する内容を指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

解剖学・生理学等の基礎医学的知識を活かし、トレーニング理論とトレーニング効果を理解することとする。
また、その知識を実践に活かすことにより、競技力向上や健康づくりなど、さまざまな現場でトレーニング指導に携わることが可能となることを理解する。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

	・トレーニング指導者テキスト 実践編・改訂版 ・トレーニング指導者テキスト 理論編・改訂版
--	--

[履修の条件・留意点]

- ・私語など他の学生に迷惑をかける行為は禁止とする
- ・ストレッチ、トレーニングは無理をすると重大事故につながるということを留意しておくこと

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	体力学総論	講義
2回	トレーニング指導者の役割	講義
3回	トレーニング計画の立案（総論）	講義
4回	筋力トレーニングのプログラム作成	講義
5回	パワー向上トレーニングの理論とプログラム作成	講義
6回	有酸素性及び無酸素性持久力向上トレーニングの理論プログラム作成	講義
7回	スピード向上トレーニングの理論とプログラム作成	講義
8回	ウォームアップ、クールダウン、柔軟性向上トレーニングの理論とプログラム作成	講義
9回	特別な対象のためのトレーニングとプログラム	講義
10回	傷害の受傷から復帰までのトレーニングとプログラム	講義
11回	トレーニング効果の測定と評価の実際	講義
12回	測定データの活用とフィードバックの実際	講義
13回	トレーニングの運営	講義
14回	運動指導のための情報収集と活用	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

解剖学Ⅲ

2学年

[基本情報]

担当教員	高橋 理	単位数	2	時間数	30
実務/資格	歯科大学、大学院で教授職を務めた歯科医師が、医学の基礎となる解剖学のうち循環器系、内臓器系について人体の正常基本構造および構成要素について指導する科目である。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

人体の脈管系、消化器系についての知識を身につける。脈管系の構造、位置を理解し、血液、リンパが人体をどのように循環するか理解する。そして消化器の構造を理解し、内臓の位置関係を的確に説明できるようになることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、単位認定試験等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

「解剖学」 全国柔道整復学校協会

[履修の条件・留意点]

覚える量が大変多い科目なので、集中して授業に臨んで下さい。
どの科目でもそうですが、繰り返し復習することが大切で、しっかり知識を身につけていってください。ここでつまづいてしまうと他の科目の学習が滞ってしまう恐れがあります。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	脈管系①：体循環と肺循環・心臓の構造・大動脈について	講義
2回	脈管系②：頸部の動脈・頭部の動脈	講義
3回	脈管系③：胸部・腹部の動脈	講義
4回	脈管系④：上肢の動脈・骨盤・下肢の動脈	講義
5回	脈管系⑤：動脈小テスト	講義
6回	脈管系⑥：全身の静脈	講義
7回	脈管系⑦：リンパ系・胎児循環	講義
8回	脈管系⑧：静脈・リンパ小テスト	講義
9回	内臓系①：消化器系（口腔・歯・舌・食道・胃）	講義
10回	内臓系②：消化器系（小腸・大腸）	講義
11回	内臓系③：消化器系（肝臓・胆嚢・膵臓）	講義
12回	内臓系④：消化器系 小テスト	講義
13回	内臓系⑤：泌尿器系（腎臓・尿管）	講義
14回	内臓系⑥：泌尿器系（膀胱・尿道）	講義
15回	まとめ、解説（単位認定試験）	講義

[授業科目]

解剖学Ⅳ

2学年

[基本情報]

担当教員	高橋 理		単位数	2	時間数	30
実務/資格	歯科大学、大学院で教授職を務めた歯科医師が、医学の基礎となる解剖学のうち内臓器系と内分泌系について人体の正常基本構造および構成要素について指導する科目である。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

人体の呼吸器系、泌尿器系、生殖器系そして内分泌系についての知識を身につける。各器官の構造と位置を理解し、的確に説明できるようになることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、単位認定試験等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

「解剖学」 全国柔道整復学校協会

[履修の条件・留意点]

覚える量が大変多い科目なので、集中して授業に臨んで下さい。
どの科目でもそうですが、繰り返し復習することが大切で、しっかり知識を身につけていってください。ここでつまづいてしまうと他の科目の学習が滞ってしまう恐れがあります。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	内臓学：泌尿器系（腎臓・尿管）	講義
2回	内臓学：泌尿器系（膀胱・尿道）	講義
3回	内臓学：泌尿器系まとめ 小テスト	講義
4回	内臓学：生殖器系（男性）	講義
5回	内臓学：生殖器系（女性）	講義
6回	内臓学：生殖器系まとめ 小テスト	講義
7回	内臓学：呼吸器系	講義
8回	内臓学：呼吸器系まとめ小テスト	講義
9回	内臓学：内分泌系（ホルモン総論・視床下部・下垂体）	講義
10回	内臓学：内分泌系（各内分泌器官）	講義
11回	内臓学：内分泌系まとめ 小テスト	講義
12回	内臓学：感覚器系（皮膚感覚）	講義
13回	内臓学⑬：感覚器系（視覚・聴覚・平衡感覚）	講義
14回	内臓学⑬：感覚器系まとめ 小テスト	講義
15回	まとめ、解説（単位認定試験）	講義

[授業科目]

解剖学Ⅴ

2学年

[基本情報]

担当教員	高橋 理		単位数	2	時間数	30
実務/資格	歯科大学、大学院で教授職を務めた歯科医師が、医学の基礎となる解剖学のうち神経系と感覚器について人体の正常基本構造および構成要素について指導する科目である。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

人体の神経系、感覚器系についての知識を身につける。中枢神経系、末梢神経系、感覚器系の役割や構造を理解し、人体をどのように制御、作用しているかを適切に説明できるようになることを目標とする。

[評価方法]

単位認定は出席日数、単位認定試験等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

「解剖学」 全国柔道整復学校協会

[履修の条件・留意点]

覚える量が大変多い科目なので、集中して授業に臨んで下さい。
どの科目でもそうですが、繰り返し復習することが大切で、しっかり知識を身につけていってください。ここでつまづいてしまうと他の科目の学習が滞ってしまう恐れがあります。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	神経系 総 論 (中枢神経と末梢神経 ニューロンとグリア細胞)	講義
2回	神経系 大 脳Ⅰ (脳室系、区分と機能中枢、内部構造)	講義
3回	神経系 大 脳Ⅱ (大脳基底核、大脳辺縁系)	講義
4回	神経系 間 脳 ・ 小 脳	講義
5回	神経系 脳 幹	講義
6回	神経系 脊 髄Ⅰ (前根後根 灰白質 反射弓)	講義
7回	神経系 脊 髄Ⅱ (上行伝導路 下行伝導路＝錐体路・錐体外路)	講義
8回	神経系 脳神経Ⅰ (嗅神経・視神経・動眼神経・滑車神経・三叉神経・外転神経)	講義
9回	神経系 脳神経Ⅱ (顔面神経・内耳神経・舌咽神経・迷走神経・副神経・舌下神経)	講義
10回	神経系 自律神経 (交感神経と副交感神経)	講義
11回	神経系 脊髄神経 (頸神経叢と枝 腕神経叢と枝 腰神経叢と枝 仙骨神経叢と枝)	講義
12回	体表解剖 (体表区分・骨格系・筋系)	講義
13回	体表解剖 (脈管系・神経系)	講義
14回	体表解剖 (目耳鼻口、外皮、生体計測)	講義
15回	まとめ、解説 (単位認定試験)	講義

[授業科目]

生理学Ⅲ

2学年

[基本情報]

担当教員	神長 まどか	単位数	2	時間数	30
実務/資格	医療系大学で指導経験のある教員が、内分泌や生殖、神経の基本について指導し、柔道整復師として必要な知識を修得することを目的とする科目である。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

生体内の内分泌、生殖、神経の働きについて理解する。各内分泌の作用と神経の働きを学び、生体の恒常性がどのように保たれているかの理解できる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単元終了ごとに行う小テストと単位認定試験を基本に総合的に判断します。60点以上で単位取得となります。

[教科書]

[参考書]

全国柔道整復学校協会 生理学 第3版 根来・貴邑 著

全国柔道整復学校協会 解剖学 第2版 岸清・石塚 寛著

[履修の条件・留意点]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

授業態度（GWの参加態度等）と単位認定試験で成績を評価する。試験範囲はこの授業で学習した範囲とする。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	2 筋の生理 A.骨格筋①	講義
2回	A.骨格筋②	講義
3回	B.心筋 C.平滑筋	講義
4回	筋の生理のまとめ	講義
5回	3 神経の生理 A.神経信号の伝達①	講義
6回	A.神経信号の伝達② B.神経系の構成	講義
7回	C.脳の高次機能	講義
8回	D.内臓機能の調節	講義
9回	神経の生理のまとめ	講義
10回	4 運動の生理 A.運動の調節 B.運動神経と運動単位	講義
11回	C.脊髄による反射と調節①	講義
12回	C.脊髄による反射と調節②	講義
13回	D.脳幹による運動調節 E.高次運動機能	講義
14回	運動の生理のまとめ	講義
15回	全体のまとめと解説	講義

[授業科目]

生理学Ⅳ

2学年

[基本情報]

担当教員	神長 まどか		単位数	2	時間数	30
実務/資格	医療系大学で指導経験のある教員が、神経、筋肉、感覚器の機能について指導し、柔道整復師として必要な知識を修得することを目的とする科目である。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

感覚の生理、内分泌、生殖について学ぶ。感覚の生理、内分泌、生殖について理解し、説明できる知識を身につける。

[評価方法]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。
授業態度（GWの参加態度等）と単位認定試験で成績を評価する。試験範囲はこの授業で学習した範囲とする。

[教科書]

[参考書]

公益社団法人全国柔道整復師学校協会監修『生理学改訂第4版』,南江堂.

全国柔道整復学校協会 解剖学 第2版 岸清・石塚寛著

[履修の条件・留意点]

- ・必ず教科書を持参すること。
- ・時々グループワークを行うので、積極的に参加して下さい。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	5 感覚の生理 A.感覚の一般的な性質 B.特殊感覚①視覚	講義
2回	B.特殊感覚②視覚, 聴覚	講義
3回	B.特殊感覚③平衡覚, 味覚, 嗅覚	講義
4回	C.体性感覚①皮膚感覚, 深部感覚 D.内臓感覚 E.痛覚	講義
5回	感覚の生理のまとめ	講義
6回	6 内分泌 A.内分泌腺とホルモン	講義
7回	B.ホルモンの種類とその働き①(視床下部と下垂体)	講義
8回	B.ホルモンの種類とその働き②(甲状腺と副甲状腺)	講義
9回	B.ホルモンの種類とその働き③(副腎)	講義
10回	B.ホルモンの種類とその働き④(腎臓・膵臓)	講義
11回	内分泌のまとめ	講義
12回	7 生殖 A.性分化 B.男性生殖器(精巣のホルモンを含む)	講義
13回	C.女性生殖器(卵巣のホルモン含む) D.妊娠と分娩	講義
14回	生殖のまとめ	講義
15回	全体のまとめと解説	講義

2022年度

[分野]

専門基礎

/ 人体の構造と機能

[授業科目]

総合スポーツ生理学

2学年

[基本情報]

担当教員	神長 まどか		単位数	2	時間数	30
実務/資格	医療系大学で指導経験のある教員が、特にスポーツの場面に関係する生理学について指導し、柔道整復師として必要な知識を修得することを目的とする科目である。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

高齢者、競技者の生理学的変化について理解する。加齢により、人体にどのような生理学的変化が起こるのかを理解し、年齢に応じた適切な施術、アドバイスができるようにする。また、運動による生理学的な変化を理解し、競技者に対して適切な施術、アドバイスができるようになることを目標とする。

[評価方法]

発表30点、筆記試験70点で評価をおこなう。

筆記試験は授業最終日に行う。試験形式は4者択一問題とする。

[教科書]

[参考書]

公益社団法人全国柔道整復師学校協会監修『生理学改訂第4版』,南江堂.

[履修の条件・留意点]

全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

授業態度（GWの参加態度等）と単位認定試験で成績を評価する。試験範囲はこの授業で学習した範囲とする。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	16 高齢者の生理学的特徴・変化①	講義
2回	16 高齢者の生理学的特徴・変化② 17 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化①	講義
3回	17 発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化②	講義
4回	第1～3回のまとめ	講義
5回	一般生理学Ⅰ（生理学の基礎①）	講義
6回	一般生理学Ⅱ（生理学の基礎②）	講義
7回	一般生理学Ⅲ（生理学の基礎グループワーク, 血液①）	講義
8回	一般生理学Ⅳ（血液②）	講義
9回	一般生理学Ⅴ（血液③）	講義
10回	一般生理学Ⅵ（血液グループワーク, 循環①）	講義
11回	一般生理学Ⅶ（循環②）	講義
12回	一般生理学Ⅷ（循環③）	講義
13回	一般生理学Ⅸ（循環グループワーク, 呼吸の生理①）	講義
14回	一般生理学Ⅹ（呼吸の生理②）	講義
15回	全体のまとめと解説	講義

[授業科目]

運動学Ⅰ

2学年

[基本情報]

担当教員	最上 忠		単位数	2	時間数	30
実務/資格	柔道整復師の教員が、運動器の機能と構造について理解を深めるための内容を指導する科目である。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

柔道整復師が施術を行う運動器について理解する。運動器の構造を理解した上で、運動の際、それらがどのような働きを行うかを学び、理解できる知識を見に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等と進級試験の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

「運動学」 斎藤 宏 社団法人全国柔道整復学校協会
監修 医歯薬出版

「基礎運動学」 中村 隆一 斉藤 宏 医歯薬出版

[履修の条件・留意点]

毎回の授業前にテキストに目を通して（予習して）おけば、授業の習熟度があがります。
授業はテキストに沿って行いますので、テキストを必ず持参してください。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	運動器の構造と機能	骨、関節の構造と機能	講義
2回	運動器の構造と機能	骨格筋の構造と機能	講義
3回	四肢と体幹の運動	上肢帯	講義
4回	四肢と体幹の運動	肩関節	講義
5回	四肢と体幹の運動	肘関節	講義
6回	四肢と体幹の運動	手関節	講義
7回	四肢と体幹の運動	手指の筋	講義
8回	股関節の運動		講義
9回	膝関節の運動		講義
10回	足関節と足部の運動		講義
11回	体幹と脊柱の運動		講義
12回	頸椎の運動		講義
13回	胸椎の運動		講義
14回	腰椎、仙椎および骨盤、顔面の運動		講義
15回	まとめ、解説		講義

[授業科目]

運動学Ⅱ

2学年

[基本情報]

担当教員	道用 亘		単位数	2	時間数	30
実務/資格	運動学を専攻する教員が、人体の機能と構造について理解を深めるための内容を指導する科目である。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

下肢と体幹の運動器の構造、歩行、走行、姿勢、運動発達について理解する。体の仕組みを理解し、立位時や運動時にはどのような動作が行われているかを理解する。新生児から成人までの運動発達を理解し、人の運動がどのように成熟、抑制されるかを理解できる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験は授業最終日に行う。試験形式は4択選択問題と筆記の文章問題で構成し、点数配分は文章問題が6割以上とする。正答率6割以上で単位認定とする。

[教科書]

[参考書]

運動学」斎藤 宏 社団法人全国柔道整復学校協会監修

「基礎運動学」 中村 隆一 斉藤 宏 医歯薬出版
「図解四肢と脊椎の診かた」 Stanley Hoppenfeld 医歯薬出版

[履修の条件・留意点]

毎回の授業前にテキストに目を通して（予習して）おけば、授業の習熟度があがります。

授業内容でわからないことがあれば、積極的に質問してください。

授業内で、柔道整復師国家試験の過去問題及び関連問題を行います。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	運動学とは、運動の表し方	講義
2回	身体運動と力学 力の基礎・人体における単一機械構造	講義
3回	身体運動と力学 運動の法則・仕事と力学的エネルギー	講義
4回	神経の構造と機能 神経細胞・末梢神経	講義
5回	神経の構造と機能 中枢神経	講義
6回	運動感覚	講義
7回	反射と随意運動	講義
8回	姿勢、重心、立位姿勢、立位姿勢の制御、機能肢位	講義
9回	歩行 歩行に関する専門用語、歩行周期	講義
10回	歩行 歩行の運動学的・運動力学的分析	講義
11回	歩行 走行、異常歩行	講義
12回	運動発達	講義
13回	運動発達	講義
14回	運動学習	講義
15回	単位認定試験、解答・解説	講義

2022年度

[分野]

専門基礎

/ 疾病と傷害

[授業科目]

病理学概論Ⅰ

2学年

[基本情報]

担当教員	最上 真理子		単位数	2	時間数	30
実務/資格	臨床経験を積んだ医師が、疾病や老化の成り立ちについて形態的側面から理解を深めることを指導する科目である。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

病理学についての理解と疾患による生体の変化を病因、形態学的観点から理解する。病理学とはどのような学問かを理解し、生体の観察方法、組織の萎縮や肥大変性、疾病の分類、壊死、循環障害、炎症について、柔道整復師として必要な知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

前・後期末試験の成績と授業への参加度を基準として、総合的な評価を行う。

[教科書]

[参考書]

病理学概論（医歯薬出版）

[履修の条件・留意点]

遅刻と私語をしないこと。机上に食物を置かないこと。授業中にレポートを作成して提出すること。返却されたレポートは配布資料と共にファイルに綴じて保存すること。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	病理学とは、病理学の対象、剖検、観察方法	講義
2回	疾病の分類、症候の分類	講義
3回	萎縮、変性	講義
4回	代謝障害	講義
5回	老化、壊死、死	講義
6回	血液の循環障害	講義
7回	リンパ液の循環障害	講義
8回	脱水症、高血圧	講義
9回	肥大、過形成	講義
10回	炎症の一般	講義
11回	炎症の原因と形態学的変化	講義
12回	炎症の分類	講義
13回	脳死と臓器移植	講義
14回	演習	講義
15回	まとめ、解説（単位認定試験）	講義

2022年度

[分野]

専門基礎

/ 疾病と傷害

[授業科目]

一般臨床医学Ⅰ

2学年

[基本情報]

担当教員	高桑 雄一	単位数	2	時間数	30
実務/資格	医師及び医科大学での教育と研究の実績を持つ担当教員が、医療者に求められる一般臨床医学の基本を理解するよう指導する科目である。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

柔道整復師に必要な医学について学ぶ。臨床では様々な患者が来院するため、業務範囲外の知識を身に付け、適切に評価、対応できるようにする。評価をする際の適切な対応、問診、視診、打診、触診、生命徴候や検査法などの知識を身に付ける。

[評価方法]

授業の出席・聴講を必要条件とし、確認試験で60%以上を十分条件とする。

[教科書]

[参考書]

一般臨床医学（医歯薬出版株式会社）改訂第3版

[履修の条件・留意点]

板書を自分のノートに筆記し、正常（解剖・生理）と照らして、病態及び診断と治療のポイントを理解するように努めること。毎回配布する確認の資料を自分で整理すること。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	1 診察概論（一般臨床医学とは？現状と課題）	講義
2回	2 診察各論 1（A医療面接）	講義
3回	2 診察各論 2（B視診 1）	講義
4回	2 診察各論 3（B視診 2）	講義
5回	2 診察各論 4（B視診 3）	講義
6回	2 診察各論 5（C打診、E触診）	講義
7回	2 診察各論 6（D聴診）	講義
8回	2 診察各論 7（F生命徴候）	講義
9回	2 診察各論 8（G感覚検査）	講義
10回	2 診察各論 9（H反射検査）	講義
11回	2 診察各論10（I代表的な臨床症状 1）	講義
12回	2 診察各論11（I代表的な臨床症状 2）	講義
13回	3 検査法 1	講義
14回	3 検査法 2	講義
15回	まとめ、解説	講義

2022年度

[分野]

専門基礎

/ 疾病と傷害

[授業科目]

一般臨床医学Ⅱ

2学年

[基本情報]

担当教員	高桑 雄一	単位数	2	時間数	40
実務/資格	医師及び医科大学での教育と研究の実績を持つ担当教員が、医療者に求められる主要疾患について理解するよう指導する科目である。				
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

一般臨床のうち呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患に焦点を当て、各疾患の病態、診断、治療の概要を理解し、自分の言葉で説明できることを目標とする。

[評価方法]

授業の出席・聴講を必要条件とし、確認試験で60%以上を十分条件とする。

[教科書]

[参考書]

一般臨床医学（医歯薬出版株式会社）改訂第3版

[履修の条件・留意点]

板書を自分のノートに筆記し、正常（解剖・生理）と照らして、病態及び診断と治療のポイントを理解するよう努めること。毎回配布する確認の資料を自分で整理すること。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	呼吸器疾患・総論・各論1	講義
2回	呼吸器疾患・各論2	講義
3回	呼吸器疾患・各論3	講義
4回	呼吸器疾患・各論4	講義
5回	呼吸器疾患・各論5・まとめ	講義
6回	循環器疾患・総論・各論1	講義
7回	循環器疾患・各論2	講義
8回	循環器疾患・各論3	講義
9回	循環器疾患・各論4	講義
10回	循環器疾患・各論5・まとめ	講義
11回	消化器疾患・総論・各論1	講義
12回	消化器疾患・各論2	講義
13回	消化器疾患・各論3	講義
14回	消化器疾患・各論4	講義
15回	消化器疾患・各論5・まとめ	講義
16回	代謝疾患・総論・各論1	講義
17回	代謝疾患・各論2	講義
18回	代謝疾患・各論3	講義
19回	代謝疾患・各論4・まとめ	講義
20回	確認試験	講義

2022年度

[分野]

専門基礎

/ 疾病と傷害

[授業科目]

外科学概論Ⅰ

2学年

[基本情報]

担当教員	宮川 哲平俊山 聖史	単位数	2	時間数	30
実務/資格	臨床経験のある医師が、柔道整復師に必要な組織損傷、熱傷、輸血、消毒、手術などについて必要な知識を身に着けるよう指導する科目である。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

柔道整復師に必要な外科学について学ぶ。組織の損傷、熱傷、炎症、感染症、輸血、輸液、消毒、手術法、麻酔、移植、免疫を、柔道整復師として必要な知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等と進級試験の結果をもって判定。なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

外科学概論 改定第4版（南江堂）

[履修の条件・留意点]

国家試験で問われることが多いところを中心に、授業中に説明します。下記の教科書に準じて授業を進めます。他科目を含め覚えることが多いので、外科学概論については授業中になるべく頭に入れるようにしてください。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	イントロダクション（解剖・生理の復習を含む）	講義
2回	損傷	講義
3回	炎症と外科感染症	講義
4回	腫瘍	講義
5回	ショック、心肺蘇生、出血と止血	講義
6回	輸液、輸血	講義
7回	消毒と滅菌	講義
8回	手術と麻酔	講義
9回	移植と免疫	講義
10回	外傷総論	講義
11回	脳神経外科	講義
12回	甲状腺、頸部疾患、胸部疾患	講義
13回	心臓、脈管、乳腺疾患	講義
14回	腹部外科疾患	講義
15回	まとめ、解説	講義

2022年度

[分野]

専門基礎

/ 疾病と傷害

[授業科目]

整形外科学

2学年

[基本情報]

担当教員	林 泰京	単位数	2	時間数	30
実務/資格	骨関節、筋などの運動系疾患、外傷を大学で教授経験のある教員が、医療者に求められる整形外科学の基本を理解するよう指導する科目である。				
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

整形外科領域の疾患，治療法を学ぶ。運動器を施術するにあたり，外傷以外の疾患に対しても適切に対応できる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

整形外科学（改訂第4版）	標準整形外科学（第14版）
--------------	---------------

[履修の条件・留意点]

1) 特別の理由がない遅刻は出席と認めない。2) 講義中の私語、携帯電話による通話、メールは禁止し、直ちに退席を求める。3) 学習状況に応じて授業計画は柔軟に変更する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	整形外科とは 運動器の基礎知識①骨の基礎知識	講義
2回	運動器の基礎知識②関節の基礎知識③筋・靱帯・腱の基礎知識など	講義
3回	整形外科の診察法	講義
4回	整形外科の検査法	講義
5回	整形外科の治療法 ①保存療法 ②観血的療法	講義
6回	骨関節損傷総論 ①骨折総論 ②関節の損傷	講義
7回	スポーツ整形外科総論、リハビリテーション総論	講義
8回	疾患別各論①感染性疾患、骨端症	講義
9回	疾患別各論 ②骨腫瘍、軟部腫瘍	講義
10回	疾患別各論 ③非感染性軟部・骨関節疾患（変形性関節症）	講義
11回	疾患別各論 ③非感染性軟部・骨関節疾患（関節リウマチ）	講義
12回	疾患別各論 ③非感染性軟部・骨関節疾患（その他）	講義
13回	疾患別各論 ④全身性の骨・軟部疾患	講義
14回	疾患別各論 ⑤四肢循環障害	講義
15回	まとめ、解説	講義

2022年度

[分野]

専門基礎

/ 疾病と傷害

[授業科目]

衛生学 I

2学年

[基本情報]

担当教員	大友 由希子		単位数	2	時間数	30
実務/資格	専門学校で指導経験のある歯科医師が、公衆衛生活動の講演の経験を活かし、公衆衛生活動の基礎となる知識について理解を深めるための基礎的知識に関する内容を指導する科目である。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

衛生学、公衆衛生学について学ぶ。健康は万人に関わるもので、健康についての正しい知識を身に付ける。具体的には健康の概念、疾病予防、感染症予防、消毒法、環境保健、食品衛生、保健関連など、柔道整復師にとって必要な知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

衛生学・公衆衛生学（改訂第6版） 南江堂

[履修の条件・留意点]

遅刻、欠席の取り扱いについては学則どおりとします。
授業で配布したプリントは保存するようにしてください。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動	講義
2回	健康の概念	講義
3回	健康の概念（衛生統計）	講義
4回	健康の概念（衛生統計）	講義
5回	疾病予防と健康管理	講義
6回	感染症の予防	講義
7回	感染症の予防	講義
8回	感染症の予防	講義
9回	消毒	講義
10回	消毒	講義
11回	消毒	講義
12回	環境衛生	講義
13回	環境衛生	講義
14回	環境衛生	講義
15回	まとめ、解説（単位認定試験）	講義

2022年度

[分野]

専門基礎

/ 疾病と傷害

[授業科目]

リハビリテーション医学Ⅰ

2学年

[基本情報]

担当教員	田中 順一郎		単位数	2	時間数	30
実務/資格	専門学校で指導経験のある教員が、リハビリテーションについて理解を深めるために、リハビリテーションの概念と歴史、定義、リハビリテーション医学における障害学や治療学、評価と診断について指導する科目である。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

患者がもつ障害に対する理解を深めると同時に、国家試験に向け知識を整理・吸収し、リハビリテーションの基礎について学ぶ。

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等と進級試験の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

公益社団法人 全国柔道整復学校協会
監修：リハビリテーション医学 改訂第4版

授業毎にプリントを配布する

[履修の条件・留意点]

復習を欠かさないこと。教科書を読んでくることが望ましい。疑問に思ったことはすぐ質問する。授業中、携帯電話の電源はオフにし、飲食物は机上に置かないこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	リハビリテーションの理念	講義
2回	リハビリテーションの対象と障害者の実態	講義
3回	障害の階層とアプローチ	講義
4回	リハビリテーション評価学(身体計測、関節可動域測定法：上肢、下肢)	講義
5回	リハビリテーション評価学(徒手筋力テスト：上肢・下肢、身体所見)	講義
6回	リハビリテーション評価学(身体所見、小児運動発達の評価、ADL評価)	講義
7回	リハビリテーション評価学(心理的評価、認知症の評価、電気生理学的検査、画像検査)	講義
8回	リハビリテーション評価学(運動失調、障害の評価、関節拘縮、関節の変形)	講義
9回	リハビリテーション障害学と治療学(筋萎縮、末梢神経麻痺、中枢神経麻痺)	講義
10回	リハビリテーション障害学と治療学(摂食・嚥下障害、高次脳機能障害)	講義
11回	リハビリテーション障害学と治療学(ライフサイクルと各ステージの障害特性、障害の受容、廃用症候群)	講義
12回	リハビリテーション障害学と治療学(関節拘縮、リンパ浮腫、筋力強化、慢性疼痛、バイオフィードバック)	講義
13回	リハビリテーション障害学と治療学(歩行練習、全身運動、レクリエーション治療、リスク管理)	講義
14回	模擬試験、解答と解説	講義
15回	まとめ、解説(単位認定試験)	講義

2022年度 [分野] 専門 / 基礎柔道整復学

[授業科目]

外傷学理論

2学年

[基本情報]

担当教員	須田 正志	単位数	2	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が、怪我の予防に関する理解を深めるため基礎的知識に関する内容を指導する科目である。				
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

外傷の保存療法を理解する。外傷で起こる種々の怪我に対して、適切な保存療法を行える知識を身に付け、説明できるようになることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

包帯固定学・柔道整復学（実技編）	プリント配布
------------------	--------

[履修の条件・留意点]

授業中は携帯などの使用、飲食は禁止。机上に置かず、鞆の中に入れておくこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	固定について	講義
2回	包帯法	講義
3回	部位別包帯法	講義
4回	部位別包帯法	講義
5回	その他包帯法（三角巾・晒）	講義
6回	固定材料の作成と固定例	講義
7回	ギプスの種類・テーピングの名称	講義
8回	柔道整復術について（応急処置法）	講義
9回	運動器系の疼痛を訴える患者の施術（問診・視診・触診・機能的診察）	講義
10回	運動器系の疼痛を訴える患者の施術（鑑別疾患・合併症の有無・治療法に関する情報の提示）	講義
11回	運動器系の疼痛を訴える患者の施術（説明と同意・整復法・固定法・固定後の確認）	講義
12回	運動器系の疼痛を訴える患者の施術（医師との連携・固定期間・後療法）	講義
13回	運動器系の疼痛を訴える患者の施術（治癒の判定・指導管理）	講義
14回	運動器系の疼痛を訴える患者の施術	講義
15回	まとめ・解説	講義

[授業科目]

柔整骨折理論Ⅲ

2学年

[基本情報]

担当教員	蓮本 宏一		単位数	2	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が、体幹、下肢骨折の基本的な知識、症状について指導する科目である。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

教科書およびプリント、パワーポイントでの授業実施、国家試験に向けての理論を学び、臨床、実技につなげる。下肢の骨折を解剖学を含めて学び、臨床現場で適切な施術、処置ができるようになることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、単位認定試験、進級試験の結果をもって総合判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学・理論編 改訂第6版 実技書 他

[履修の条件・留意点]

教科書および配付プリントは毎回持参する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	頸部・胸部・腰部骨折	講義
2回	頸部・胸部・腰部骨折 骨盤骨折	講義
3回	骨盤骨折・大腿骨近位端部骨折	講義
4回	大腿骨近位端部骨折	講義
5回	大腿骨骨幹部骨折	講義
6回	大腿骨骨幹部骨折	講義
7回	大腿骨遠位端部骨折	講義
8回	膝蓋骨骨折・下腿近位端部骨折	講義
9回	下腿近位端部骨折	講義
10回	下腿骨骨折	講義
11回	下腿骨骨折・足関節部骨折	講義
12回	足関節部骨折	講義
13回	足・趾骨骨折	講義
14回	足・趾骨骨折・まとめ	講義
15回	単位認定試験	講義

[授業科目]

柔整脱臼理論Ⅱ

2学年

[基本情報]

担当教員	西田 朋美	単位数	2	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が、脱臼の整復、固定と軟部組織損傷の検査法について指導する科目である。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

体幹、下肢の脱臼について理解する。各関節の発生機序、症状、治療法などを学び、臨床現場で活かせる知識、技術を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験は授業最終日に行う。試験形式は4択選択問題と筆記問題で構成し、点数配分は筆記問題が6割以上とする。正答率6割以上で単位認定とする。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学 理論・実技	標準整形外科 骨・関節X線写真の撮りかた見かた
-------------	-------------------------

[履修の条件・留意点]

国家試験・臨床において対応できるように基本的な知識を身に付けよう。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	手部の脱臼 (小テスト問題含む)	講義
2回	顎関節脱臼 ① (解剖・発生機序)	講義
3回	顎関節脱臼 ② (前方脱臼・後方脱臼・側方脱臼)	講義
4回	顎関節脱臼 ② (整復法・固定)	講義
5回	顎関節脱臼の小テスト / 解答・解説 / 頸椎脱臼 ① (解剖)	講義
6回	頸椎脱臼・胸腰椎脱臼	講義
7回	股関節脱臼 ② (前方脱臼・後方脱臼)	講義
8回	股関節脱臼 ③ (中心性脱臼)	講義
9回	発育性股関節脱臼 ① (概要)	講義
10回	発育性股関節脱臼 ② (固定法)	講義
11回	股関節脱臼 小テスト / 解答・解説	講義
12回	膝関節脱臼 ① (機能解剖・前方脱臼)	講義
13回	膝関節脱臼 ② (後方脱臼・側方脱臼・回旋脱臼)	講義
14回	膝関節脱臼 小テスト / 解答・解説 総まとめ	講義
15回	復習・まとめ	講義

[授業科目]

柔整軟損理論Ⅱ

2学年

[基本情報]

担当教員	最上 忠		単位数	2	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が、下肢の軟部組織損傷について理解を深めるための知識に関する内容を指導する科目である。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

体幹、下肢の軟部組織損傷について理解する。各組織損傷の発生機序、症状、治療法などを学び、臨床現場で活かせる知識、技術を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学 理論編

標準整形外科学（医学書院）

[履修の条件・留意点]

授業中は携帯などの使用、飲食は禁止。机上に置かず、鞆の中に入れてもらうこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	股関節疾患①：単径部痛症候群、股関節拘縮症、FAI、弾発股	講義
2回	股関節疾患②：梨状筋症候群、乳幼児、思春期の疾患、大腿骨頭壊死症、変形性股関節症	講義
3回	大腿部軟損：大腿部打撲、肉離れ、骨化性筋炎	講義
4回	小テスト① 股関節疾患～大腿部疾患	講義
5回	小児の膝疾患	講義
6回	膝関節疾患①：半月板損傷、靱帯損傷	講義
7回	膝関節疾患②：発育期の損傷、腸脛靱帯炎、鷲足炎	講義
8回	膝蓋大腿関節疾患	講義
9回	小テスト② 小児の膝疾患～膝蓋大腿関節疾患	講義
10回	下腿部軟部組織損傷：アキレス腱断裂、テニスレッグ、コンパートメント症候群	講義
11回	足部軟部組織損傷①：アキレス腱炎、足関節捻挫	講義
12回	足部軟部組織損傷②：ショパール関節、リスフラン関節損傷、扁平足障害	講義
13回	足部軟部組織損傷③：足部の有痛性疾患	講義
14回	小テスト③ 下腿部～足部軟部組織損傷、総復習	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

柔整総合講座Ⅰ

2学年

[基本情報]

担当教員	最上 忠		単位数	2	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が、主に脱臼、軟部組織損傷の基礎的知識を身に付けるために指導する科目である。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

柔道整復学について学ぶ。柔道整復学理論の総論を含む軟部組織損傷についてさらに理解を深め、整形外科疾患なども合わせて理解し、臨床現場で対応できる知識、能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等の結果をもって判定する。
なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学 理論編	標準整形外科学（医学書院）
-----------	---------------

[履修の条件・留意点]

授業中は携帯などの使用、飲食は禁止。机上に置かず、鞆の中に入れておくこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	肩関節の構造、肩の軟部組織損傷①	講義
2回	肩の軟部組織損傷②	講義
3回	肩の軟部組織損傷、肘の軟部組織損傷	講義
4回	前腕末梢神経障害①	講義
5回	前腕末梢神経障害②、小テスト	講義
6回	前腕の軟部組織損傷、手関節部の軟部組織損傷	講義
7回	手指部の軟部組織損傷①	講義
8回	手指部の軟部組織損傷②	講義
9回	軟損総復習①	講義
10回	軟損総復習②	講義
11回	軟損総復習③	講義
12回	軟損総復習④	講義
13回	軟損総復習⑤	講義
14回	まとめ、解説	講義
15回	総合試験	講義

[授業科目]

柔整総合講座Ⅱ

2学年

[基本情報]

担当教員	須田 正志	単位数	2	時間数	30
実務/資格	臨床経験、専門学校での指導経験のある教員が、主に骨折に関する基礎知識の習得を目指す科目である。				
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

柔道整復学について学ぶ。柔道整復学理論の各論についてさらに理解を深め、整形外科疾患、内科疾患なども合わせて理解し、臨床現場で対応できる知識、能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は単位認定試験結果をもって判定し、100点中60点以上で合格とする。
 なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合は学年末試験の受験を認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学・実技編 改訂版2版
 柔道整復学・理論編 改訂版6版

柔道整復外傷学ハンドブック 上肢の骨折・脱臼
 柔道整復外傷学ハンドブック 下肢の骨折・脱臼

[履修の条件・留意点]

私語など他の学生に迷惑をかける行為は禁止とする。

※学生諸君の理解度、要望により授業計画、内容の変更の可能性あり

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	鎖骨、肩甲骨の柔整理論	講義
2回	上腕骨近位部、上腕骨骨幹部の柔整理論	講義
3回	上腕骨骨幹部、上腕骨遠位部の柔整理論	講義
4回	前腕近位部、前腕骨幹部の柔整理論	講義
5回	前腕遠位部の柔整理論	講義
6回	手根骨、指骨の柔整理論	講義
7回	骨盤の柔整理論	講義
8回	大腿骨近位部の柔整理論	講義
9回	大腿骨骨幹部、遠位部の柔整理論	講義
10回	膝蓋骨、下腿近位部の柔整理論	講義
11回	下腿骨幹部、遠位端部の柔整理論	講義
12回	ラウゲハンセン、足趾の柔整理論	講義
13回	頭蓋骨、脊椎の柔整理論	講義
14回	脊椎、肋骨の柔整理論	講義
15回	総まとめ、解説	講義

[授業科目]

柔整骨折実技Ⅱ

2学年

[基本情報]

担当教員	西尾 悠介	単位数	1	時間数	30
実務/資格	接骨院やスポーツ現場で臨床を経験した柔道整復師が、上肢骨折(肘～指)に関する固定法を取得するために基礎知識も踏まえて指導する科目である。				
開講学期	前期	---	授業形態	---	実習

[授業目標]

座学で学んだ上肢骨折の知識を施術に生かせるよう、実技の内容を理解する。上肢の骨折の整復固定の技術を身に付ける事を目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験と進級試験も結果をもって判定する。
なお、前授業数の1/3以上の欠席があった場合、学年末試験の受験を認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学・実技編 改訂版2版 南江堂

[履修の条件・留意点]

授業で使用する包帯、ハサミなど必要なものは忘れない事。実技の時間は白衣を着用し、アクセサリーなど実技の邪魔になるものは外す事。実技室は飲食禁止です、また机上に飲食物を置く事も禁止とします。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	オリエンテーション(シラバス説明・認定実技試験について)	実習
2回	上腕骨顆上骨折(理論・整復)	実習
3回	上腕骨顆上骨折(整復・固定)	実習
4回	肘頭骨折(理論・整復)	実習
5回	肘頭骨折(理論・整復)	実習
6回	中手骨骨幹部骨折(理論・固定)	実習
7回	中手骨骨幹部骨折(プライトン固定)	実習
8回	コーレス骨折(理論・クラーメル作成)	実習
9回	コーレス骨折(診察法の手順と整復)	実習
10回	コーレス骨折(整復・固定)	実習
11回	コーレス骨折(整復・固定) 実技認定対策	実習
12回	復習(顆上骨折・肘頭骨折)	実習
13回	復習(中手骨骨折・コーレス骨折)	実習
14回	まとめ・解説	実習
15回	まとめ・解説	実習

[授業科目]

柔整骨折実技Ⅲ

2学年

[基本情報]

担当教員	西尾 悠介		単位数	1	時間数	30
実務/資格	接骨院やスポーツ現場で臨床を経験した柔道整復師が、肋骨骨折と下肢骨折(足指～下腿)に関する固定法を取得するために基礎知識も踏まえて指導する科目である。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

座学で学んだ下肢骨折の知識を施術に生かせるよう、実技の内容を理解する。下肢の骨折の整復固定の技術を身に付ける事を目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験と進級試験も結果をもって判定する。
なお、前授業数の1/3以上の欠席があった場合、学年末試験の受験を認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学・実技編 改訂版第2版

[履修の条件・留意点]

授業で使用する包帯、ハサミなど必要なものは忘れない事。実技の時間は白衣を着用し、アクセサリなど実技の邪魔になるものは外す事。実技室は飲食禁止です、また机上に飲食物を置く事も禁止とします。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	中足骨骨折(理論・固定)	実習
2回	中足骨骨折(プライトン固定)	実習
3回	足部骨折骨折(理論・固定材作成)	実習
4回	足部骨折(プライトン固定)	実習
5回	足部骨折(厚紙副子固定)	実習
6回	肋骨骨折(診察法の手順・厚紙作成)	実習
7回	肋骨骨折(理論・固定)	実習
8回	肋骨骨折(固定) 国試認定対策	実習
9回	下腿骨幹部骨折(診察法の手順と整復)	実習
10回	下腿骨幹部骨折(固定)	実習
11回	下腿骨幹部骨折(固定) 国試認定対策	実習
12回	復習(中足骨・足趾骨折)	実習
13回	復習(肋骨・下腿骨幹部骨折)	実習
14回	まとめ・解説	実習
15回	まとめ・解説	実習

[授業科目]

柔整骨折実技Ⅳ

2学年

[基本情報]

担当教員	佐々木 玲衣		単位数	1	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が、骨折に関する診察法や整復法、固定法の復習とギプス巻き（上肢・下肢）の理解を深めるための基礎的知識に関する内容を指導する科目である。					
開講学期	---	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

座学で学んだ知識を施術に生かせるよう、実技の内容を理解する。外傷に対するギプスの固定技術を身に付ける事を目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等と進級試験の結果をもって判定する。なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学 実技偏 包帯固定学

[履修の条件・留意点]

授業で使用する包帯セット、ハサミを忘れない事。座学以外の授業は常に白衣は着用する事。疑問に思ったことはすぐ質問する。授業中の机上に菓子、飲み物等を出しておかない。実技室は飲食禁止。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	ギプス（理論）前腕ギプス・膝関節ギプス・足関節ギプス（走行練習）	実習
2回	前腕短腕ギプス（手関節良肢位）	実習
3回	膝関節ギプス（理論）（靱帯損傷・膝蓋骨骨折に対応）	実習
4回	膝ギプス	実習
5回	足関節ギプス（理論）（靱帯損傷・足関節部骨折に対応）	実習
6回	足関節ギプス	実習
7回	足趾骨折固定	実習
8回	鎖骨骨折 復習	実習
9回	鎖骨骨折 復習	実習
10回	上腕骨外科頸骨折 復習	実習
11回	上腕骨骨幹部骨折 復習	実習
12回	練習	実習
13回	練習	実習
14回	まとめ	実習
15回	まとめ、解説	実習

[授業科目]

柔整軟損実技

2学年

[基本情報]

担当教員	西田 朋美	単位数	1	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が、軟損に関する検査法や固定法の理解を深めるための基礎的知識に関する内容を指導する科目である。				
開講学期	---	後期	授業形態	---	実習

[授業目標]

軟部組織損傷に対しての施術，検査法を理解する。体幹，上肢，下肢の軟部組織損傷理解し，各損傷に対しての施術，検査法が適切に行え，評価できる知識，技術を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

実技試験は認定実技試験に準じて行う。① 術者 ② 患者 ③ 助手 この3つの担当をすべて行って点数を与える。（ 60点以上で合格とする。）試験日両日の欠席は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復実技	
--------	--

[履修の条件・留意点]

1回やった＝出来るではない。授業時間中は何度も何度も練習をすること。

実技室で実技を行わない、ふざけたりしているなど周りへの迷惑行為があった場合は減点対象とする。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	頸部捻挫・頸椎疾患 徒手検査法	実習
2回	腰部捻挫・腰椎疾患 徒手検査法	実習
3回	肩腱板損傷 徒手検査法	実習
4回	上腕二頭筋長頭腱損傷 徒手検査法	実習
5回	肘関節内側側副靱帯損傷 徒手検査法 テーピング固定	実習
6回	肉離れ（ハムストリングス・大腿四頭筋）	実習
7回	肉離れ（下腿三頭筋・アキレス腱断裂）	実習
8回	膝関節軟部組織損傷（内側側副靱帯損傷）	実習
9回	膝関節軟部組織損傷（Xサポートテープ）	実習
10回	膝関節軟部組織損傷（十字靱帯損傷）	実習
11回	膝関節軟部組織損傷（膝半月板損傷）	実習
12回	足関節捻挫① 理論 検査法	実習
13回	足関節捻挫② テーピング（バスケットウィーヴテープ）	実習
14回	足関節捻挫② テーピング（ヒールロックテープ）	実習
15回	足関節固定③ 厚紙副子固定 アキレス腱断裂シーネ固定	実習

2022年度

[分野]

専門

/ 柔道整復実技

[授業科目]

柔整脱臼軟損実技Ⅰ

2学年

[基本情報]

担当教員	①西田 朋美 ②最上 忠	単位数	1	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が、脱臼に関する検査法や固定法の理解を深めるための基礎的知識に関する内容を指導する科目である。				
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習

[授業目標]

下肢の脱臼、軟部組織損傷に対して処置を学ぶ。下肢脱臼の整復、固定の基礎知識、技術を身に付ける。また、下肢軟部組織損傷の検査法と処置できる技術を身につけ、臨床現場で施術できる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験は授業最終日に行う。試験形式は4択選択問題と筆記の文章問題で構成し、点数配分は文章問題が6割以上とする。正答率6割以上で単位認定とする。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学理論・実技	標準整形
------------	------

[履修の条件・留意点]

- ① 教科書は必ず持参すること。 ② プリントや教科書に大事なことは書き込むこと。
 ③ 復習をきちんと行うこと。 ④ 分からない事はそのままにしないこと。
 ⑤ 検査法や整復法は積極的にこなす。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	膝蓋骨脱臼 ①（解剖・発生機序）	実習
2回	膝蓋骨脱臼 ②（分類・整復・固定）	実習
3回	膝蓋骨脱臼 小テスト / 解説	実習
4回	足部の脱臼 （機能解剖・背側脱臼）	実習
5回	足部脱臼 小テスト / 解答・解説 / 足関節機能解剖	実習
6回	足関節脱臼骨折 ①	実習
7回	足関節脱臼骨折 ② （小テスト／解説含む）	実習
8回	ガイダンス、頭部外傷、顎関節症	実習
9回	頸部の疾患①	実習
10回	頸部の疾患②	実習
11回	小テスト、胸背部疾患	実習
12回	腰部疾患①	実習
13回	腰部疾患②	実習
14回	体幹軟損総復習	実習
15回	総復習・まとめ	実習

[授業科目]

柔整脱臼軟損実技Ⅱ

2学年

[基本情報]

担当教員	佐々木 玲衣	単位数	1	時間数	40
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が、脱臼の整復、固定と軟部組織損傷の検査法について指導する科目である。				
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習

[授業目標]

上肢、下肢の脱臼、軟部組織損傷に対して処置を学ぶ。上肢、下肢の脱臼の整復、固定の基礎知識、技術を身に付ける。また、上肢、下肢の軟部組織損傷の検査法と処置できる技術を身につけ、臨床現場で施術できる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験及び小テスト等と進級試験の結果をもって判定する。なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学理論 実技	標準整形外科
------------	--------

[履修の条件・留意点]

- ① 教科書は必ず持参すること。 ② プリントや教科書に大事なことは書き込むこと。
③ 復習をきちんと行うこと。 ④ 分からない事はそのままにしないこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	顎脱臼	実習
2回	肩鎖関節脱臼(解剖・理論・整復)	実習
3回	肩鎖関節脱臼(整復・固定)	実習
4回	肩鎖関節脱臼(整復・固定)	実習
5回	肩関節脱臼(解剖・理論・整復)コッヘル法	実習
6回	肩関節脱臼(整復・固定)ヒポクラテス法・ゼロポジション	実習
7回	肩関節脱臼(固定)	実習
8回	肘関節脱臼(解剖・理論・整復)	実習
9回	肘関節脱臼(整復・固定)	実習
10回	肘内障(解剖・理論・整復)	実習
11回	肘内障(整復・固定)	実習
12回	第2指PIP背側脱臼(解剖・理論・整復)	実習
13回	第2指PIP背側脱臼(固定)	実習
14回	まとめ・解説	実習
15回	まとめ・解説	実習
16回	肘関節内側側副靱帯損傷 徒手検査法 テーピング固定	実習
17回	検査法の復習	実習
18回	テーピング・固定の復習	実習
19回	まとめ・解説	実習
20回	まとめ・解説	実習

2022年度

[分野]

専門

/ 臨床実習

[授業科目]

臨床実習Ⅱ

2学年

[基本情報]

担当教員	佐々木 玲衣		単位数	1	時間数	45
実務/資格	柔道整復師として臨床を積んだ専門学校の教員が、クリニックでの実習調整を行い、医師、理学療法士、看護師との連携と対応を学び、幅広い患者に対応できる知識を身に付けてもらう科目である。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

学園グループの整形外科クリニックにおいて実習を行う。クリニックで実習を行うことにより、医師、看護師、理学療法士との連携を学び、より広い視野を身に付ける。また、接骨院では稀な疾患を見ることにより、幅広い患者への対応ができるようになることを目標とする。

[評価方法]

当科目の単位認定は実習先の先生の評価シートの評価と実習ノートの記入をもって評判定する。
上記日程で各6回実習を行う。欠席は認めない。

[教科書]

[参考書]

--	--

[履修の条件・留意点]

身だしなみ(頭髪、髪色、服装、アクセサリ)には特に注意すること。
医療人としての自覚を持ち、患者さんに接する態度にも十分に留意する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	主に整骨院・整形外科など臨床現場にて見学実習	実習
2回		実習
3回		実習
4回		実習
5回		実習
6回		実習
7回		実習
8回		実習
9回		実習
10回		実習
11回		実習
12回		実習
13回		実習
14回		実習
15回		実習
16回		実習
17回		実習
18回		実習
19回		実習
20回		実習

2022年度 [分野] 専門 / 臨床実習

[授業科目]

臨床実習Ⅲ

2学年

[基本情報]

担当教員	佐々木 玲衣		単位数	1	時間数	45
実務/資格	柔道整復師として臨床をつんだ専門学校の教員が、整骨院で患者への施術を行い、実際の臨床現場での対応を身につけてもらう科目である。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

学園グループの整形外科クリニックにおいて実習を行う。臨床実習Ⅱで体験したことをより深く理解するため、整形外科クリニックで再度実習を行う。

[評価方法]

当科目の単位認定は実習先の先生の評価シートの評価と実習ノートの記入をもって評判定する。
上記日程で各6回実習を行う。欠席は認めない。

[教科書]

[参考書]

[履修の条件・留意点]

身だしなみ(頭髪、髪色、服装、アクセサリ)には特に注意すること。
医療人としての自覚を持ち、患者さんに接する態度にも十分に留意する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	主に整骨院・整形外科など臨床現場にて見学実習	実習
2回		実習
3回		実習
4回		実習
5回		実習
6回		実習
7回		実習
8回		実習
9回		実習
10回		実習
11回		実習
12回		実習
13回		実習
14回		実習
15回		実習
16回		実習
17回		実習
18回		実習
19回		実習
20回		実習